

## 資料5-2 付表 1 (JAXA調査結果)

### 2030年頃に想定される輸送規模例 (サブオービタル・低軌道・中軌道)

			輸送先	
			サブオービタル ※1	低・中軌道 ※1
輸送対象	有人	ミッション例	宇宙観光・P2P	宇宙観光・PostISS有人輸送
		規模の例	宇宙観光：2800億円、3400フライト以上/年	宇宙観光：600億円、8フライト/年 PostISS：1機以上(政府)
	無人	ミッション例		通信 (Constellation、X,Ka,Ku,Vバンド通信他)・ 状況把握 (海洋状況把握、情報収集)・ 地球観測 (温室効果ガス観測、資源探査、地球観測)・ 宇宙状況把握 (SSA)・ その他 (即応小型、デブリ除去、デオービット・検査ロボティクス)
		規模の例 (商業利用)		通信 (商業)：700億円(600機/年) ：(250kg以下;100ton/年)、(250-500kg;70ton/年) 状況把握 (商業/政府)：1400億円(40機-120機/年) ：(1-22ton/年) 地球観測 (商業)：200億円(40-120機/年) ：(7ton/年) SSA (商業)：600億円 ：(2000機/10年に対し、100kgと仮定し、20ton/年) その他 (商業)：40億円(55機/年) ：(2ton/年)  (参考) 2030年頃総計 200ton-221ton/年

出典

※1 Northern Sky Research 2019

## 資料5-2 付表 2 (JAXA調査結果)

### 2030年頃に想定される輸送規模例 (静止軌道・月・火星)

			輸送先		
			静止軌道 ※1	月遷移・月面	火星
輸送対象	有人	ミッション例		有人月面探査・アルテミス計画	有人探査
		規模の例		1機/3年 14~20 ton(LTO換算) ※2	
	無人	ミッション例	通信通信 (Ka,Ku通信他) 状況把握 地球観測(気象衛星) GPS (準天頂) その他 (寿命延長・早期警戒・検査ロボティクス)	アルテミス計画 (GW補給)・月面・ 科学探査	
		規模の例	通信 (商業) : 1000億円(10~15機) : (3000kg以下: 60%、3000kg-6000kg: 30%) 地球観測 (政府) : 2000億円(15-23機) 状況把握 (政府) : 1000-2000億円(10機未満) GPS (準天頂) : 一億円 (6機/10年) その他 (商業) : 300億円 (15機/年) : (寿命延長: 2000kg級相乗り)	アルテミス計画 (GW補給) : 国際調整中 月面 (商業) : 1.5ton(2030年以降) ※2 月面 (政府) : 国際調整中	

出典

※1 Northern Sky Research 2019

※2 商業月利用研究会2020年